

# 視 察 報 告 書

報告者氏名：池田 徳重

**委員会名**：環境教育常任委員会

**期 間**：令和5年10月18日（水）～10月20日（金）

**視察都市等及び視察項目**

厚木市

「教育情報ネットワーク用コロケーションデータセンターについて」

新見市

「インクルーシブ教育について」

福岡市

「夜間ごみ収集について」

**所 感 等**

厚木市

－調査先の現状

教育情報ネットワークに関するサーバ群を、コロケーションデータセンターに配備することにより、安全性の高い環境下で同ネットワークの運用管理を実現している。

同データセンターでは、サーバ稼働障害時の影響の甚大化を未然に防ぐため、瞬電対策が施され、自家発電装置も設置されており、常に電源を確保することが可能な状態となっている。

－説明事項抜粋

- ・ 教育情報システムは平成30年のネットワーク再構築事業で更新
- ・ 対象小中学校は36校
- ・ 校務系システムと学習系システムは完全に分離して運用
- ・ これまで自然災害の影響は受けていない。
- ・ 耐用年数が過ぎた時に値の張るガバメントクラウドではなくグループ等の民間事業者のクラウドに移行する。

－成果及び所感

- ・ 内容が専門的過ぎて多くの説明が理解不能であった。
- ・ 説明内容を理解できているのは数名の議員であり、今回の常任委員会の調査項目として選定したことが適切であったか疑問を覚えた。
- ・ 今後このような専門的な内容について調査するのであれば、当市

の現状について学習した上で臨むべきであったと反省している。

## 新見市

### 一調査先の現状

現在、日本の特別支援教育の在り方、目指すべきインクルーシブ教育の在り方が改めて問われている。「新見市特別支援教育推進センター」では、市内の保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校と連携し、インクルーシブ教育システム構築のため、特別支援教育の充実を目指している。

主な取組みの一つとして、小学校卒業後も困ることがないように、同センターの機能を活かした人材育成を行いながら、中学校にも通級指導教室を設置している。

### 一説明事項抜粋

- ・ 新見市の概要
- ・ 新見市の教育環境の歴史（藩校から発展した流れ等）
- ・ 新見市の教育の現状
  - 学力向上の取組み  
プログラミング教育（ドローン活用法）等
  - インクルーシブ教育の推進
  - ふるさとキャリア教育の推進  
石灰鉱山見学、千屋牛飼育体験、ピオーネ栽培体験
  - 連携・一貫した教育の推進  
保こ小、小中、高校との連携促進、地域学校協同等
  - 論語教育推進事業（令和4年度～モデル校で実施中）  
人としての在り方、生き方を考える機会提供
  - フッ化物洗口推進事業（令和4年度～モデル校で実施中）  
児童に適切な虫歯予防への理解促進
- ・ 新見市の特別支援教育
  - 子供の人口は5年間で約20%減少の中で自閉症・情緒障害の子供数は増加傾向
  - 同じ場で共に学ぶことを追求し、ニーズに的確に応える指導を提供する。そのため多様な学びの場を充実
  - 特別支援教室では、通常学級に代えて（一時通常学級を離れ）その子の特性に合わせた個別指導
  - 同教室では自立活動的な要素を取り入れた指導
  - 通常学級担任と同教室担当とよく連携
- ・ 新見市特別支援教育推進センター

- 特別支援教育のセンター的な機能
  - ・ 保育所・幼稚園及び推進リーダーの巡回相談
  - ・ 研修会、ケース会議の開催
- 教育相談、教育支援体制の充実
  - ・ 保護者の願い（子供にどうなって欲しい）
  - ・ 子供の願い（自分はどうなりたいか）
    - ⇒ 将来の自立と社会参加
- 通級による指導（ことばの教室）
- 通級による指導の拡充に向けた支援・調査研究・情報収集
- ・ インクルーシブ教育システム構築の理念
  - 特別支援教育の推進
    - ⇒ インクルーシブ教育システムの構築
    - ⇒ 共生社会の実現

## 一見 学

- ・ 特別支援教室の授業風景
- ・ ことばの教室 等

## 一成果及び所感

- ・ 新見市の教育にかける熱い思いを肌で感じる研修であった。
- ・ 全生徒に対する地域学習の実施を通じて故郷を愛する心を育む施策は横須賀市でも取り入れ充実させる必要があると思うが、横須賀市はそれなりに広く地域特性もあることから実施項目については十分検討する必要があると思慮する。
- ・ 論語教育を通じた道徳教育はユニークな発想であり、市内の子供達が共通の教育を受けることでさらにモチベーションが上がるのではないかと思慮する。横須賀においても同種の教育の実施について検討すべきと考える。
- ・ 日本のインクルーシブ教育の導入状況は欧米に比してかなり遅れているとの批判を受けている。しかしただ単にその導入率をあげる努力をすればいいということではない。私の息子が自閉症でインクルーシブ教育の中でひどいいじめに会い、以後特別学級に移動した辛い経験からも、新見市でも重視しているインクルーシブ教育を採用するか否かは、保護者及び本人に対する希望の確認が重要だと考える。

## 福岡市

### 一 調査先の現状

福岡市では、全国でも珍しいごみの夜間収集を 1961 年から実施している。具体的には、日没後から深夜 12 時までに各自が家の前にゴミを出す戸別収集で、収集はすべて民間業者が実施している。戸別収集でゴミ出しの負担が軽く、カラスの被害も受けないことから、市民の満足度は 97.8% と非常に高い。また夜間収集は収集車が渋滞にかかることもなく、交通量の多い大都市でも採用のメリットが大きい。

一方で、分別の種類を多くするとコストや環境負荷の増加につながるため、最小限の 4 分別でゴミを集め、後で分ける方法としている。

### 一 説明事項抜粋

- ・ 福岡市の概要
  - 人口 1 6 4 万人で増加中
- ・ ゴミ処理の流れ
  - ①燃えるゴミ、②燃えないゴミ、③粗大ごみ、④瓶ペットボトルの 4 種に分類
  - 収集した「燃えないゴミ」から業者が可燃物、不燃物、鉄、アルミを仕分け
- ・ ゴミ収集の歴史
  - 交通量の増加、ゴミの量の増加に対応し、昭和 3 0 年代に夜間収集に移行
  - 平成 1 7 年にゴミ袋の有料化へ
- ・ 夜間収集
  - メリット
    - ①都市美観に貢献、②昼間の交通渋滞緩和、③カラス被害を抑制、④街頭犯罪抑止
- 一 デメリット
  - ①ゴミ収集時の騒音
    - 外部作業員との情報交換用に車両後方にマイク設置
  - ②分別意識の低下
    - 他人の目がないためルール無視（他所からの投棄）
- ・ 戸別収集
  - メリット
    - ①ゴミ出し者が特定
      - 分別ルールや投棄時間が守られる

- ②ゴミ集積場管理の要なし
- ③高齢者、障害者に優しい
- デメリット

①作業経路が長くなる。

小さい道に入るため車両の大型化ができず。

②必要台数が多くなる→環境に悪影響

- ・ 市民の評価

- 夜間収集：97.8%が満足

- 戸別収集：91.0%が満足

- 家の近くまで来るので騒音に対する不満がある。

- 成果及び所感

- ・ 市民の満足度は高く、いい施策であると思う一方、多くの都市からの行政視察を迎えつつも、そのほぼ全ての都市で採用されていないのも事実である。

- ・ 夜間収集の大きなメリットであるカラス対策に関して、夜間に収集すればカラスを排除することはできるが、横須賀において近年増えている夜行性のハクビシン等がゴミをあさることになり、被害がさらに増える恐れがある。

またゴミ収集にかかる騒音については、昼間でも十分うるさいことを考慮すれば、これで夜間の睡眠を妨害されることによる苦情は大きいと思われる。

- ・ 戸別収集は高齢者等には極めてありがたいシステムであると考え。ただし、そのエリアのほとんどが平地である福岡市と比較し、高台の家も多い横須賀市で戸別収集を実施することは極めて困難であると思われる。またこれをマンパワーでクリアするためには多大な労力が必要となり、非現実的だと言わざるを得ない。高齢者等のゴミ出し支援については地域の協力体制を拡充するほうが現実的であると考え。